

## ミックスダウン（トラックダウン）について

全ての録音が終了したら、ミックスダウン（トラックダウン）の作業にはいります。この作業で全体の音色バランスが決まってきますが、それによって曲全体の印象やフレーズ果てはアレンジからVo.の説得力まで変わってしまいます。また、ここでかけるエフェクターによって Delay や Comp を使った特殊効果をしかけることができます。

ここで、一番難しいのは「**どういう音にしたいか**」をいかにエンジニアに伝えるかです。「**こんな音にしたい**」というのを言葉だけで伝えるのは非常に困難ですから、「**このCDの何曲目の感じ。**」というふうに直接CDを聞いてもらいましょう。

（ただし、録音の条件によりどこまで突き詰められるかは別です）

同じ様に他のパートも、詰めていくこととなりますが、各々が希望する音色にしてしまうと全体で聞いた時のバランスが良いとは限りません。常に全体像に気を配って、全体のバランスを考えて下さい。

ある程度のバランスが取れたら、モニターを変えて聞いてみましょう。スタジオのスピーカーで聞く様な音量で普段聞くことはまずありませんので、どこにでもあるようなラジカセやヘッドホンステレオで確認してみましょう。恐らく今までスタジオで聞いていたバランスとは全然違って聞こえるでしょう。

また、歌とバックのバランスには特に気を使いましょう。後々、後悔することが特に多いのがここですから、大きな音や小さな音で聞いてみて下さい。

ダブリングやダブルボイス等の特殊効果は、使い過ぎると「**特殊**」ではなくなってしまいます。どの曲で使うか、どこで使うかはよく考えて下さい。

また、どうやって効果を出しているか分からない場合は、これもCD等を直接聞いてもらいましょう。時には、高価なエフェクター（安価な場合もある）等で作っているケースもありますので、まったく同じものにはならないでしょうが、ひたすらチャレンジですから時間に余裕があれば実験してみるのも面白いでしょう。

これでOKとなったら、マスターテープに落とします。通常は、DATに落とすことが多いようです。もし必要ならば、ここでカラオケも落としておいた方が後々何かの時に役立ちます。さらに慎重を期すのなら、DAT to DATのデジタルコピーで、サブマスターを作ります。そして、このマスターテープを元にCDを作ったり、MDやカセットにダビングします。

## マスタリングについて

CDを製作する場合は、この後にマスタリングという作業が必要になります。

詳しくは、3ページ（1-7マスタリングについて）をご覧ください。